

# 半導体漫遊記

## 湯之上隆

車載半導体マイコンの売上高で世界第3位のルネサスが、国内外の13工場で前代未聞の生産停止に踏み切る。特に国内主要6工場の停止期間は、最大2カ月に及ぶという。

新聞などはその理由を、米中貿易摩擦により中国経済が失速したこと、および16年の熊本大震災の影響で事業継続計画(BCP)を強化したため、過剰在庫を持ったことにあると報じている。

しかし、本当にそんなのだろうか? 筆者は各種のデータを分析したが、現在のところ、その原因を説明できない。しかし窮地に陥る兆候は、18年後半に既に現れている。以下で詳述したい。

まず中国経済の失速

は、ルネサスの操業停止の直接的な原因ではないと考えられる。というのは、18年のルネサスの地域別売上高構成比率は、日本(39.8%)、中国(20.2%)

は、ルネサスの操業停止の直接的な原因ではないと考えられる。というのは、18年のルネサスの地域別売上高構成比率は、日本(39.8%)、中国(20.2%)

は、ルネサスの操業停止の直接的な原因ではないと考えられる。というのは、18年のルネサスの地域別売上高構成比率は、日本(39.8%)、中国(20.2%)

は、ルネサスの操業停止の直接的な原因ではないと考えられる。というのは、18年のルネサスの地域別売上高構成比率は、日本(39.8%)、中国(20.2%)

# ルネサス、2カ月の操業停止

## 米インターシル買収が影響か

は、ルネサスの操業停止の直接的な原因ではないと考えられる。というのは、18年のルネサスの地域別売上高構成比率は、日本(39.8%)、中国(20.2%)

は、ルネサスの操業停止の直接的な原因ではないと考えられる。というのは、18年のルネサスの地域別売上高構成比率は、日本(39.8%)、中国(20.2%)

は、ルネサスの操業停止の直接的な原因ではないと考えられる。というのは、18年のルネサスの地域別売上高構成比率は、日本(39.8%)、中国(20.2%)

は、ルネサスの操業停止の直接的な原因ではないと考えられる。というのは、18年のルネサスの地域別売上高構成比率は、日本(39.8%)、中国(20.2%)

いてであるが、確かに17年の第1四半期に90%を超えていたルネサスの主要工場の稼働率は、18年の第4四半期に60%程度まで低下している。ルネサスは過剰在庫を減らすため、工場の稼働率を低下させたと考えられる。

しかし、分からないのは図1に示した通り、この間の四半期毎の売上高は安定している。営業利益率も16年(8.9%)と比べて、依然としてルネサスの主力ビジネスは日本である。中国の売上高は日本の約半分であり、これがいくらか失速したとしても、国内外13工場が生産停止するほどのことには至らないだろう。

次に、過剰在庫について、この間の四半期毎の売上高は安定している。営業利益率も16年(8.9%)と比べて、依然としてルネサスの主力ビジネスは日本である。中国の売上高は日本の約半分であり、これがいくらか失速したとしても、国内外13工場が生産停止するほどのことには至らないだろう。

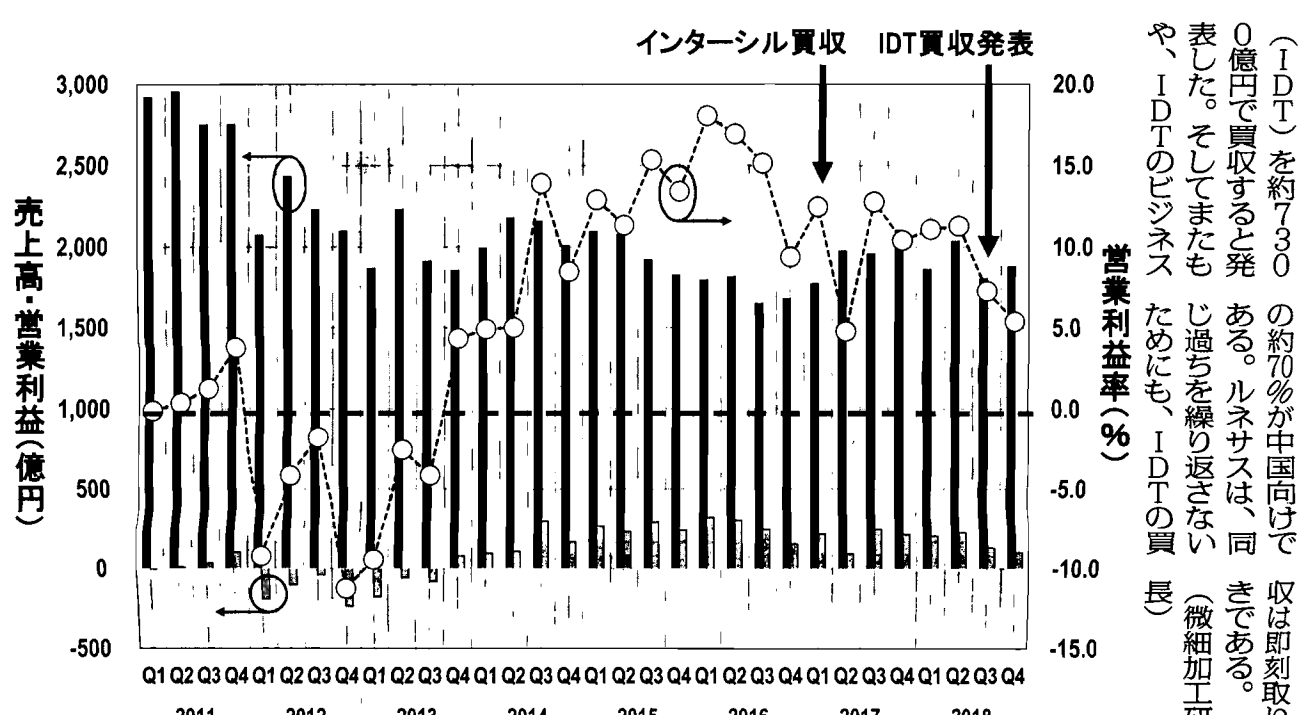


図1 ルネサス エレクトロニクスの四半期毎の業績

出所:ルネサス エレクトロニクスのIRデータを基に筆者作成

(IDT)を約730億円で買収すると発表された。そしてまたもや、IDTのビジネス (IDT)を約730億円の約70%が中国向けに買収するやめるべきである。ルネサスは、同じく(微細加工研究所・所